

療養環境研究会シリーズⅡ 第7回オープンワークショップ議事録
「感染管理と療養環境～新型インフルエンザ対策を中心に～」

日時：2009年11月18日（水）18:00～20:00

場所：日本赤十字社 会議室（東京都港区芝大門 1-1-3）

司会進行：最所浩美（日本赤十字社）・小林健一（国立保健医療科学院）・

参加者：36名

1. 「急性期病院における感染管理—小児科及び産科外来における対策—」

原田知子（武蔵野赤十字病院 看護師長 感染管理認定看護師）

新型インフルエンザの小児科および産科における状況についてお話しいただいた。

- ・ 新型インフルエンザの入院患者数の約8割が15歳未満であること。
- ・ 小児外来は感染症が約7割を占めていること。
- ・ 妊婦は免疫力が下がるため罹ると重症化する危険が高いこと。
- ・ 産科外来は感染症を対応するには相応しくなく他科の協力を要する。 など

2. 「建築設計の立場からみた病院における新型インフルエンザ対策」

郡明宏（鹿島建設 建築設計部）

感染について建築・設計の立場からみた対策をお話しいただいた。

- ・ 空調設備の指針やCDCガイドラインの概要について。
- ・ 空気感染、飛沫感染に対する建築的対応について。
- ・ 換気のしくみや仮設テントによる対応 など

3. 「身近な感染症と新型インフルエンザ」

中川靖章（日本赤十字社医療センター化学療法科副部長 ICD）

新型インフルエンザに関する仕組み、発生状況と治療の現状についてお話しいただいた。

- ・ 新型インフルエンザはカモ→アヒル→ブタ→人のルートにより発生。
- ・ インフルエンザは主に飛沫感染による急性の呼吸器感染症である。
- ・ 今回の新型インフルエンザの全身症状は季節性インフルエンザと類似し基礎疾患を有する者や妊婦で重症化している。 など

4. 質疑応答

新型インフルエンザに関して、参加者と講師の先生による質疑応答が行われた。

- ・ 致死率の母数は？ →罹患した人を母数とする。致死率は国家間格差がある。
- ・ WHOが出しているガイドラインはどこに標準をあてているのか？ →不明。
- ・ インフルエンザは飛沫感染といつつも空気感染の対応をしている。実際どういった対応が必要なのか（飛沫ならスペースがあればよいのでは？） →接触感染に関する対策が重要。
- ・ インフルエンザが流行ると空気清浄機は売れるのか？病院では？ →病院内ではコストがかかるという理由が出てくるので難しい。